

平成31年度 授業改善推進プラン

第1学年 美術科

1 目指す学力・目指す授業

- ・学校として基礎的・基本的な学力の定着を目指し、生徒の学習意欲の向上を図る。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れ、反復学習による知識の定着化を図り、この一単位時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

2 生徒の現状<定期考査等からの分析>

- ・定期考査においては、基礎的な知識となる「色の学習」や「鑑賞」に関して、出題した。事前に色彩や鑑賞の取り組みをおこなうことで、多くの生徒が基礎知識を理解することができた。
- ・実技の観点からみると、「レタリング」「絵文字デザイン」「ポスター」の課題の主旨をよく理解し、しっかり取り組むことができている。
- ・提出物は概ね良好である。
- ・授業時に使う持ち物を忘れる生徒は、少ない。
- ・授業での態度・様子については、概ね真面目に課題に取り組むことができている。
- ・授業の理解度においては、やや個人差があり、一斉指導に加え細かな個人指導が必要な生徒が若干いる。
- ・「つくること、描くこと」に興味・関心をもち、楽しみながら制作・作業ができている。

3 生徒の学力・学習状況等の課題と対応策

- ・個人差を考慮に入れても、基礎力の定着が最重要課題である。
- ・一斉指導では、大切なポイントを聞き逃さないように、生徒の注意を引くための工夫が必要である。
- ・個人指導の時間をしっかりともち、生徒一人一人の作品の進行状況や、授業の理解度を把握することが重要である。
- ・実技が好きな生徒が多く、水準の高い作品を期待できる。さらなる向上を目指したい。

4 具体的な授業改善策

- ・基礎力の徹底においては、反復授業の方法について再度検討を行う。「授業の流れ・本時の目標」を板書や要約プリントで明示し、その時間で何を目標に制作を行うべきかを、生徒自身が毎時間理解できるようにし、そのパターンを定着させる。また、「振り返り」の時間を充分取り、その時間にできたこと、できなかったことを生徒自身に確認させる。授業最後には、次回の持ち物を明確に伝える。
- ・一斉指導でのポイントの理解においては、最初に前時間の振り返りを簡潔に行った後、本時の作業内容を示し、制作過程における本時の目標を明確にする。
- ・制作途中でのアイデアスケッチやワークシートは、必ず個人ファイルに綴らせ、毎時間持参するよう指導する。これを定期的にチェックし習熟度等を理解し、個人指導に生かすための有力な資料とする。

第2学年 美術科

1 目指す学力・目指す授業

- ・学校として基礎的・基本的な学力の定着を目指し、生徒の学習意欲の向上を図る。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れ、反復学習による知識の定着化を図り、この一単位時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

2 生徒の現状<定期考査等からの分析>

- ・定期考査では、「鑑賞」を中心に出題した。事前に鑑賞レポートと併せることで、多くの生徒が鑑賞の基礎知識を理解することができている。
- ・実技問題においては、出題意図をよく把握し、落ち着いて、しっかりと取り組むことができていた。
- ・提出物は概ね良好である。
- ・授業時に使う道具や持ち物を忘れる生徒は、少ない。
- ・1クラス内の人数が多く、授業の理解度には個人差がみられることから、一斉指導・個人指導共に工夫や配慮が特に必要な学年である。
- ・「つくること、描くこと」に興味・関心をもち、楽しみながら制作・作業ができている。

3 生徒の学力・学習状況等の課題と対応策

- ・理解力が十分でない生徒への対応には、基礎の定着を図り、また、理解力が十分にあり発展的な学習が可能な生徒に対しては、その能力を伸ばしていけるような個人指導を行うことが大切と考えられる。
- ・「つくること、描くこと」に興味・関心をもち、実技が好きな生徒が比較的多い学年の良い特性を生かし、制作意欲を持続させる授業プランを組み立てることが重要である。

4 具体的な授業改善策

- ・特に、理解力が十分でない生徒が授業での導入時でポイントの聞き逃しがないよう、一斉指導では引き続き「本時の目標・流れ」を、板書や要約プリントで明確に示す。授業内容によっては、映像資料を用いて生徒の興味や関心をもたせる導入を行う。
- ・個別指導に役立てるために、「目標シート」を活用する。そして、生徒自身が、自分の作品の制作過程を把握できるよう、毎時間の記録を取らせ、授業のまとめや振り返りをしっかり行うよう指導する。そして、できるようになったことを実感したり、自分の作品の気付きを促すことで、次の制作意欲に繋げる。

第3学年 美術科

1 目指す学力・目指す授業

- ・学校として基礎的・基本的な学力の定着を目指し、生徒の学習意欲の向上を図る。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れ、反復学習による知識の定着化を図り、この一単位時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

2 生徒の現状<定期考査等からの分析>

- ・定期考査では、「鑑賞」を中心に出題を行った。事前に鑑賞レポートと併せることで、多くの生徒が鑑賞の基礎知識を、概ね身に付けることができている。
- ・実技問題については、出題意図をよく把握し、取り組むことができている。一方、制作や作業の進み具合には個人差が見られる。
- ・提出物では、「鑑賞」の観点の評価に重要なレポートや実技課題「写実画」の提出が、若干名できていない生徒が見られる。
- ・授業への取組は、個人差はあるが、授業を重ねる毎に、比較的真面目で落ち着いて、制作できるようになってきている。
- ・「つくること、描くこと」に興味・関心をもち、楽しみながら制作ができている。

3 生徒の学力・学習状況等の課題と対応策

- ・「本時の目標・ねらい」について、多くの生徒は理解しているが、若干名、制作が遅れがちになる生徒がいるため、個人差に対する配慮が必要である。
- ・美術科の特性上、定期考査の対策のみではなく、「鑑賞」も含めた普段の授業の取り組みや、アイデアスケッチ等も学習の成果に繋がるということを、日頃から実感させる工夫が必要である。

4 具体的な授業改善策

- ・「本時の目標・ねらい」のみではなく、作品完成までの流れや作業の残り時間等を明示し、毎時間の授業の大切さを実感させる。遅れがちな生徒には、細かな声かけと個人指導を行う。
- ・ファイルに、アイデアスケッチを綴らせ、ポートフォリオ（作品集）として管理し定期的にチェックを行う。この制作途中のアイデアスケッチは「発想・構想」の観点、また、鑑賞レポートやワークシートは、「鑑賞」の観点のための評価材料になることを生徒に伝え、普段の授業時での制作意欲に繋げる。